

令和４年度 草津市健康づくり推進協議会

日時：令和４年１２月１９日（月）

１３：１５～１５：１５

場所：市役所２階 特大会議室

出席者	委員	望月委員、島田委員、住吉委員、松村委員、馬場委員、中島委員、新木委員（会長）、山本委員、井上委員、大塚委員、北村委員、水村委員、近藤委員（副会長）、真田委員〔計１４名、順不同〕
	オブザーバー	澤谷氏、阿部氏〔計２名、順不同〕
	事務局	健康福祉部理事・山本、健康増進課長・田附、同課課長補佐・小寺、同課係長・廣政、同課専門員・木村、島川、同課保健師・塩田 保険年金課長・堀江、同課係長・大隅、同課主任保健師・美馬
欠席者	委員	末下委員、小泉委員、小野委員、村防委員、田中委員、荒木委員
会議資料		別添のとおり

１ あいさつ

事務局：健康福祉部理事の山本です。

本日は大変寒い中、そしてご多用のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。草津市では、健康増進計画である健康くさつ 21 に基づき、誰もが健康で長生きできるまちを目指しており、市民の健康づくりを進められているところでございます。本日の協議会では、我々事務局より今年度の専門部会等の開催状況をご報告するとともに、令和 6 年度の健康くさつ 21 に向けて、今後のスケジュールや見直しの方向性についてご説明をさせていただきたいと思っております。このような会議の場ですと、なかなか意見もしにくいと思いますが、委員の皆様、是非とも忌憚のない意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

事務局：委員の皆様と事務局の自己紹介につきましては、次第裏面でございます。席札での紹介にかえさせていただきますので、ご了承いただきたいと思います。本日はご欠席の方が 6 名いらっしゃいますのでご報告させていただきます。本日は、健康増進計画等の策定に関わる市民アンケート調査の実施に当たりまして、食育部門のオブザーバーとして、2 名ご出席いただいております。ご意見等ちょうだいしたいと思いますのでよろしくお願いします。なお本日は 14 名の委員の出席がございまして、草津市健康づくり推進協議会設置条例施行規則第 4 条の委員の過半数を超えていることから、会議は成立しております。また、当協議会は公開としております。本日発言された内容につきましては、発言者や個人情報を除きまして、後日、市のホームページに概要を掲載いたします。

２ 会長選出

事務局：次第 2、協議会会長の選出をお願いいたします。副会長におかれましては、委員任期の令和 5 年 6 月 30 日まで、引き続きお願いさせていただいております。会長が現在不在のために、草

津市健康づくり推進協議会設置条例施行規則第3条第2項により、委員の互選によりこれを定めるものとしておりますが、会長の選出につきましていかがさせていただきますでしょうか。

(事務局一任)

事務局：ありがとうございます。他の方異議なしということによろしいでしょうか。それでは、事務局一任とのご発言をいただきましたので、事務局案としまして、草津栗東医師会所属の新木委員様に会長をお願いしたいと思えます。ご賛同いただける委員の方はどうぞ挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

事務局：それでは新木委員に会長をお願いしたいと思えます。以降の司会進行につきましては、草津市健康づくり推進協議会設置条例施行規則第3条第2項に従い新木会長をお願いいたします。

会長：今日は非常に寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。それでは本日の協議会の開催にあたり、円滑な議事進行につきまして、委員の皆様方のご協力をどうぞよろしくお願いします。それでは早速、次第に従いまして議題を進めていきたいと思えます。

3 報告事項 専門部会、および自殺対策推進会議における協議内容について

会長：事務局より、説明をお願いします。

事務局：(事務局説明)

会長：ただいまの次第3の①から④の説明を受けて何かご意見等はございますか。県保健推進部会の歯科定期健診の啓発のところですが、今日は歯科医師会の先生は来られていないですが、確かこの10月から一部の業務の方の歯科健診が義務化されたと思えます。内科の健診で異常を指摘されても受診されない方は結構多かったですりすることも問題点ですが、歯科に関しては全く放置されている状態なので、特に働き盛り世代の健診をきっちり進めていくということがこれから重要だろうと思えます。他、何かご意見ございますか。

委員：がん検診の話がありましたが、小さい子供がいるお母さんとかそういう人のがん検診は、子供がいるから検診を受けられないので、結構、病気が進んでから発見になったり、何かあっても病院に行けないという状況があり、若い方のがんが今増えてきていると思えます。若い方に対しての取り組みは今後どうなるのか、お伺いしてもいいですか。

事務局：若い方につきましては、子宮頸がん検診が20歳から受けられます。また、プレ特定健診で、基本的な健診を19歳から39歳までの方を対象に実施させていただいています。これまで子宮頸がんや乳がん検診についてはクーポン券を発行させてもらい、また、令和3年度からは集団検診という形で1度に複数の検診を同時に受けていただける取り組みをしています。確かに子育て世代の方については乳幼児健診などでも検診のご案内をさせていただいてはいますが、まだまだ受けていただけていない状況です。アンケートの項目にも少しありますが、例えば託児があれば、検診に行きやすいなど、皆様のご意見を聞かせていただきたいと思います。実は託児を以前に取り入れたときもありましたが、利用者があまりなかったという経緯もありますので、アンケートでどういう形であれば検診受診につながるのかということ、より把握していきたいと考えております。

会長：子宮頸がんは、比較的若い年齢で、また出産可能な年齢の女性の方ががん罹患して出産ができないという事態というのが問題になっていきますので、比較的若い世代の方々にも、検診を受ける機会をしっかりと作ってあげて、検診を受けていただくことが非常に大事ではないかと思えます。

オブザーバー：資料４ページの健康増進部会の発表の中で、糖尿病重症化予防を挙げられておりました。

広域連合の 75 歳以上の一体化事業につきましては、医師会の先生との連携しケアステーションが出向く活動をしておりますので、予防にも活用していただけたらと思います。

会長：病院では栄養士が指導するというような体制になっていますが、診療所ではそのような環境がないので、週に 1 回栄養指導できるということを医院に案内していただいています。在宅の方は、出張で指導をすることが可能になっていますよね。

オブザーバー：1 人の栄養士が 3、4 つの診療所にお伺いしながら、患者様と予約をとりながら、食事指導しています。

会長：例えば栄養士の方が訪問看護ステーションみたいな感じで、患者さんのいるところに行って、指導を受けるというような形態がとれば、もっとうまくいくと思います。それができなくて今は医院と栄養士が契約して来ていただく仕組みになっているので、ステーションを作って、ステーションに患者さんが行かれて指導を受けるというやり方にできないものかと思っています。

オブザーバー：制度の問題で、開業医の方に私たちが伺うのが今の制度です。どこでも伺える仕組みが作ればいいかなと思っています。

委員：①番の健康増進計画推進部会のスマートフォンの普及について、子供が自発的に健康に関する情報を得て何か学べたり、子供たちが目に触れるところで朝ご飯の大切さとか何かお知らせしていたりしていることがあれば、教えていただきたいです。

事務局：スマートフォン等を子供が使うようになってきていますが、現在は市のホームページやLINEでしか啓発できていません。子供や親御さんは紙媒体よりSNSなどの方が伝わりやすいかと思うので、そちらで啓発を拡充していければと検討している段階です。

委員：先ほど子宮頸がんの話がありましたが、去年ほどからHPVワクチンの積極的推奨があったと思いますが、何か取り組みはあるのでしょうか。教えていただけますでしょうか。

事務局：HPVワクチンの積極的勧奨が昨年度から再開されたところです。高校 2 年生以上の方で接種機会が標準的な年齢から超えてしまった方に関しても、今年からはキャッチアップ接種という形で、定期接種の範疇で公費で受けてもらえます。キャッチアップ接種の対象の方で、従来の定期接種の期間外に受けていただいた方には、かかった費用を償還払いするという制度も確保させてもらっております。子宮頸がんの予防については、予防接種とがん検診の両輪で進めるべきと思っていますので、必要な方に個別で検診の通知、接種通知する取り組みをしている状況です。

委員：パンフレットみたいなものをどこかに置いていただき周知していただくといいのかなと思います。

事務局：各医療機関にご案内させてもらっています。

会長：対象者の方にもキャッチアップの対象者の方にも何らか、送られているのでしょうか。

事務局：個別通知という形で発送させてもらっているところです。

会長：子宮頸がんの予防のためには、ワクチン接種と定期的な検診というのも 2 本立てでないと、きちんと進んでいかないという部分がございますので、よろしくお願いします。

4 報告事項 草津市健康増進計画等策定業務、および会議の位置づけについて

事務局：（事務局説明）

会長：説明についてご意見ありますでしょうか。3つの会議をされていたのが、1つになるということ

ですか。

事務局：健康づくり推進協議会に、専門 3 部会を統合した形で協議会の運営をしていければと考えています。以前は専門 3 部会分かれて専門職等の方からご意見をいただいていたところを、今後はこの協議会の方でお話できればと考えております。

会長：3 つの専門部会は令和 5 年度は続くのでしょうか。

事務局：2 ページの図ですが、現計画については各審議会をもとに策定しており、令和 6 年度以降は各計画を統合していくことを表した図になっております。矢印は計画期間を表しています。統合後の令和 6 年度以降の審議会の図につきましては、9 ページの資料にありますように審議会の形態でご審議をいただき策定を進めていくことになっております。

会長：本日からこの会において、令和 6 年度以降の計画について考えていくというような形ということで捉えていいですね。

5 協議事項 市民の健康に関するアンケート調査について

会長：事務局より説明をお願いします。

事務局：(事務局説明)

会長：それではただいまの説明を受けて、この協議事項の市民アンケート調査内容等に関しまして、何かご意見ございますか。3,000 人にアンケートをとるということですが、有効な回答が得られることを想定していますか。

事務局：回収率は 50% くらいを目指しています。

会長：50% 返ってきて、全部有効な回答になるのでしょうか。有効な回答になるのが 50% ということですよね。

事務局：草津市の人口では、有効な回答が 800 件あれば、それは統計上有効なアンケート調査とみなせるといのがございます。草津市の市民のまちづくり意識調査につきましても、そのような定義でやらせてもらっていますので、同様の回答が得られるのではないかと考えています。ただ弱点として 30～39 歳のところが全回答数に占める割合が草津市の人口構成上低いというのが、他のアンケート調査で出ていますので、そこを少しネット回答等で補完しようという考え方をいたしております。

会長：アンケート内容に関して、意見はありますか。

委員：このアンケートはすごく設問が多いです。この前のまちづくりのアンケートも 15 分ぐらいかかる回答もので、返ってきた率はこの率でしょうか。

事務局：50 問前後で 3,000 人に配布しているってところは同じです。

委員：これを見た時に、うちに届いたら多分まずやれないです。少なくとも中学生高校生は読まないと思います。働いている人は 15 分であっても、インターネットであっても、正直厳しいのではと思います。そんなに楽しいものではないと正直思います。興味があつて、何かこれですごく変わるということが全面的にもし出ていたとしたら、私はこれを変えて欲しいから答えるという意識の高い人は答えるかもしれないが、基本的にそうではない人の回答というのが多分欲しいのだと思います。でもそういう人がこの 50 問に 15 分をかけるかって言われると、かなり厳しいと思います。それが有効回答という数字に出たとしても、それが実際その必要としている人のための回答なのかと言われると、ちょっとどうかという思いがあります。

事務局：質問になりますが、もし回答されとなった時、設問数がもう少し少なければいい、読みやす

さとか、文字が多いとかその辺は皆様いかがでしょうか。

委員：私も同じ意見でかなり多いなと思いました。表などは見やすく文字の言葉とかもわかりやすく、補足いただいています、少し選択肢の数を減らしたらどうかと思います。例えばそのアルコールのところ、これは必須項目で変えられないと思いますが、週に1〜2回、3〜4回、5〜6回を区別することにどういった意味があるのかと思いました。問44ですがテレビとラジオを区別していますが、少しコンパクトにできるのではないかと思います。6〜8番をインターネット動画共有サービスと同じにするとか、もう少しコンパクトになり設問自体をもう少し削ってもいいのかと思いました。

事務局：コンパクトにできるところは再検討させていただいて市民が答えたいと思えるようなものにしていきたいと思っています。

会長：回答時間が短く済む方が、確かに答えてもらいやすい分もあるのかと思いますが、それが本当にきちんとした統計になるのかというのがあります。

委員：必須と独自がきちんと書いてあるので、そこである程度絞ってもらって設問数を減らすのがいいかなと思います。

会長：必須は絶対答えてもらって、そうでないものは飛ばせるような答えやすいものを答えるなどはどうか。

委員：絶対答えて欲しいのは最小1枚にまとめて、ここからは関心がある人はお答えくださいのような感じにしたらどうか。5分だったらやっていただけるような気がします。

委員：生活習慣病を求めているのか、糖尿病を知りたいのか、どちらが重点的に考えておられるのですか。このデータ、アンケートは、もうほとんどいろんなところで実施されていると思います。全国で見たらもう参考になるものがいっぱいあると思います。その外部データを利用しながら、本当に知りたいところを市民に聞くスタイルに持っていければもっと簡単な方法であると思います。本当に市民に訴えるデータを作のが大事だと感じました。

事務局：外部データも国・県データも見させていただいておりまして、草津市独自の地域差や、エリアの差というところを見たいというところで今回アンケート調査をさせていただこうと思っています。

委員：以前草津市が大学とタイアップされているデータがあると思うので利用された方がいいと思います。これだけ幅広いとデータがバラバラになると思うのでもっと絞った形にすれば統計的に整合性がとれてくると思います。

事務局：必須項目を前に持ってくるなど検討し、見やすい市民が答えやすいものにしていきたいと思っています。

事務局：全体を整理させていただきたいと思います。まず、こういう調査をやりますと、大体、5割から6割の回収率があるのが大前提です。それからもちろん多くの市民の方に回答していただくというのは、すごく大事なことでと思いますが、これは何のためにやるかということ、草津市が市民の皆様とともに、どういう健康づくりをやるのかという計画をつくるために、やるものなので、草津市としてはもちろん多くの方に回答いただきたいと思うものの、そのために必要なデータを取りたいということから一応マックスで今お作りさせていただいたのがこちらです。全体の話として、より答えやすいように、項目を減らすように選択肢を減らすようにというのは、もちろんこれから今日のご意見を踏まえて検討させていただきますが、この項目について聞いて市はどのような方向性を目指すのかなど具体的などころでご指摘をいただけると、議論が

深まるかと思しますのでよろしくお願いします。

副会長：大学の研究からアンケート調査を行うことが結構多いのですが、どのようなアンケートの内容、対象者であっても、必ずセクションバイアスが発生します。100%有効回答数が得られない限りは、国勢調査などでない限りは、回答してくださった方の偏りが出るので、それはもう限界としてとらえるしかないかなと思います。これに答えることで市民自身がどういうメリットがあるのかというのを、まず出せるものがあれば足してご納得いただいた方に答えていただくというスタイルに工夫するのが一つ有効ではないかなと思います。草津市の方としては、この50問に聞きたいことが盛り込まれていると思います。聞きたいことは聞きたいけれども、回答数が得られなければ、聞きたいことを聞いたとしても、有効なアンケートにはならないというところがあるので、どの辺に落としどころをつけるかというのはすごく難しいと思いますが、先ほど言っていた通り、この会議ではアンケートの内容について、こういう風なことだと聞きやすいとか、答えやすい、あるいは目的にそぐわないので省こうという、議論ができればいいのかなと思います。

委員：運動のところですが、スポーツの参加が、非常に健康に関係があるということがわかっていますので、どんなスポーツをやっているか、そんなことを聞いていただければいかがでしょうか。

事務局：どのようなスポーツをされているかという設問を入れると言うことですね。

委員：外に出て、活動するということが重要という結果が出ていますので、例えばそのスポーツに参加するかしらないか、参加するとしたらどんなスポーツをされているかがあってもいいのかなと思います。

委員：このアンケートが現状を把握したいためにされているのか、それとも要望を聞きたいためにされているのか。現状を把握するのであれば、先ほどおっしゃっていた一般のアンケートにたくさん出ているので、それを使ってもいいのではないかなと思います。現状と要望からこういう検診をして欲しいとか、こういうことをして欲しいというのを、もしアンケートで出されたら、アンケートを受けられた人も、私の声がもしかしたら通るかもしれない、考えてもらえるかもしれないと思ったら、いいのではないかなと思いました。

事務局：こちらのアンケートは実態も把握したい。施策の展開にも、少しヒントをもらいたいというところの両方ありますので、わかりやすくなるような問いになればと思っております。

オブザーバー：若い年代の傾向はいろんなところでアンケートをとられているものの、集約したデータがないので聞きたいということだと思います。高校生や大学生に小学生の健診のような何かでフィルターをかけないと結果が出てこないと思います。18歳は家族性で紐づけができる結果から傾向が出てくると思います。改善は行動変容で食生活が変われば生活習慣も変わると思います。今栄養士会は若い世代が朝食を食べないことに対して注力していて動画を作ったりしています。低体温や若い女性のやせの問題を解決するために大学生をターゲットとしています。高校生にも協力していただいています。目的やターゲットがみえてくるとよいと思います。

委員：これだけのアンケートを1人でするのは大変なので、もっと分けたらどうでしょうか。

会長：こういう形のアンケートで分けてやる、絞ってやるのかもできないというのかどうなのか、まずは決めないといけないと思いますがどうでしょうか。

事務局：予算の関係等もございまして、調査は3,000件で、例えばアンケートの概要に書いてある設問を1から8は基本情報であるとか食生活についてとか分野ごとに区切って、それぞれ3,000件

ずつ出す、回収するというのは正直難しいところがあります。何に対して回答していただきたいかというのが非常にわかりづらく、いきなり全 50 問で投げている形になっているのが一見したときの回答しづらさが、印象に繋がるかなという気はいたします。この質問は何を意図しているのかを、アンケートの中に組み込ませていただいて、回答しようかなと思っていただけるように検討します。また、字ばかりにならないよう、見易さに対する工夫を凝らした上で、配布をさせていただこうかなと思います。

副会長：分けて回答するというのも一案だと思いますが、予算の問題もあると思います。私の認識ではこのアンケートを実施する目的というのが、草津市民の現状を把握するということだと思うので、やはり分野ごとに、別の対象者に答えてもらったのを統合して解析するっていうのは、ちょっと合わないかなと思います。有効回答数が少なかったとして、1 人の人にすべて答えていただくという方が、目的には合っているのではないかと思います。先ほどご発言いただいた内容で、やはり文字が多いというのがあると思うので、例えば表紙に、アンケートをする目的がきちんとわかるような、キャッチーな言葉とかを入れてもらおうと、これは私たちに遅れてフィードバックされるんだということがわかれば、より回答していただける方が増えるのではないかと思います。

委員：これは何で行うのか、それがどう自分に返ってくるのかってわかれば、何かやる気が出るかなと思います。具体的な設問ですが、問 14 の食生活で重視していることはなぜ聞きたいのですか。

事務局：今、食の環境が変わってきていますが、楽しく食を囲む機会を大切にしておられたり、マナーに気をつけておられたり、地産地消を意識しておられたり、食品添加物に気を付けておられたりと、いろいろな観点がある中で、どのようなことを重視して食生活をされているのか、聞けるといいかと思っております。

委員：ご飯を人と一緒に食べますならわかるのですが、マナーや作法を大事にしている人が何人いるということが一体何に生きていくのかなと思います。

事務局：草津市の食育推進計画の中で三つの柱、くらし、ささえる、つなぐということで基本の施策を打ち出して、それぞれに望ましい食生活というところで掲げているところがありまして、その中で皆さんが、どのようなことを気にされているかというところで計画の方と紐づけ、それに繋がっているところであるので、こういう書き方をさせていただいています。現状を把握することによって食育を進めていくときに、大切にされていることがわからずに、行政の独りよがりアプローチをしても、なかなか浸透しないということがあります。きめ細やかに届くサービスを展開していく施策をしていくために、それぞれの大切にしていることなどの傾向も把握させていただきたいと思っています。

委員：問 44 で 6 番のインターネット検索について、ネットサーフィンというのはあまりいい言葉ではないような気がしましたので、グーグルやヤフーなど検索サイトを聞くのであれば何かわかると思いました。SNS（インスタグラム、Twitter）としてまとめられていますが、世代によっては、]例えば 30 代 40 代以上の方はフェイスブック、20 代は Twitter、インスタなど、世代によって同じ SNS でも使うものが変わってくると思います。SNS の設問を少し細かくすることで、今後の対策に生かしていただけるのではと思います。9 番の広報誌、ホームページ、SNS は全然違う媒体なので、分けたほうがいいと思います。10 番から 12 番はどれもちらし、ポスター、リーフレットだと思うので設問を一緒にして細かく分けるのなら、市役所みたいな公益的なところや医療機関などと内容と場所をもう少しわかりやすく分けた方がいいと思います。13 番は口コミになるの

かと思います。

事務局：おっしゃったように紙媒体とインターネットとの違いと、その媒体の設置場所によって利用者が違うということで、アプローチの仕方も異なってくると思いますので、ご意見を参考に整理させていただきたいと思います。

副会長：先ほど選択肢が多いという話もありましたが、目的を明確にさせていただいて、この質問をして、どういう情報をほしいか整理いただいた方がいいかなと思います。細かく選択肢をつくれば作るほど知りたい情報を得られるのかもしれませんが、有効回答数がどんどん減っていくと思うので、例えば44番の例でいくと、インターネット経由で情報を得ているかどうかという情報だけ知りたいということであれば、もう6番から9番はひとまとめこともできると思います。この問44であれば、4から5つぐらいの選択肢にまとめられたら答えやすいのではと思いますし、この問44だけでなく、他のこともそうです。問43も結構細かいので、目的をもう1回整理いただいて、何の情報をミニマムで知りたいのかを、議論いただいて、選択肢を少なくすることも、優先順位を高くしていただけるといいと思います。質問によって、ここはもう細かく施策、計画する上で必要だからなどの優先順位もあると思うので、そちらも含めて、再度ご検討いただければすっきりしたアンケートになるのではと思います。

事務局：選択肢の整理ということではもう一度目的に立ち返って整理するということで、本当に有効回答数がられるように、答えやすさというところも切り口に整理していきたいと考えます。

会長：食生活のところで、物が値上がりしていますし、収入が少ない人たちが増えてきていて、お金に困っている人が多いので、朝食を食べないのは食費節約のためもありますが、とにかく安いものを選んでいくとかの選択肢があってもいいのかなと思いました。食品にかけるお金を少なくすればするほど多分肥満が増えて、不健康な体の状態になっていくということも確かだろうと思うので、どのような形の質問で入れたらいいのかというのも検討してほしいです。食費には金銭的にお金使わないようにしている、そのような選択肢がどこかにあってもいいのかなと思います。特に若い人に言わせると、私たちの子供ぐらいの世代で一人暮らししていると果物は高くて買えないらしいです。結局、炭水化物に偏ったような食生活になります。

事務局：特にコロナウイルスの流行を受けて、経済困窮等の社会問題が背景にあることが食生活や運動習慣に影響は少なからず与えているのではと懸念しております。設問については我々も考えないといけないですし、今回最終項目にコロナウイルスの影響を追加させてもらっておりますので、検討を進めていきたいと思います。

副会長：国民健康栄養調査の結果でも、世帯収入と三大栄養素の摂取量の関連など我々の研究班でも結果論を出していますが、やはり経済状況がよくない人が炭水化物摂取に傾くのがわかっています。問6で世帯状況を聞く項目もあるので、その部分と他のアンケート項目と掛け合わせて検討することで対応できるのではないかと思います。ただ世帯収入は高齢者では、年金があったとしても働き世代と比べると減るので、必ずしも経済状況を表しているとは言えないので、私たちの研究ベースでは世帯支出情報で分析したりして、経済状況を把握しています。問10-1、2で野菜と果物の摂取量の設問で欄外に健康な生活を維持するための野菜類を1日350グラム以上食べることと書いてありますが必要でしょうか。書くとその答えに寄っていくと思います。これが正解みたいな感じになってしまうので必要がなければ、書かなくてもいいと思いました。書かなければ問題にならないと思いますが、果物は200から300グラム程度と書いてありますが、国の方で策定されているガイドラインでは食事バランスガイドでは、200グラムが推奨さ

れていますので、記載されるのであれば、そちらの数字を使っていただく方がいいと思います。

事務局：確認します。

副会長：問 51 の糖尿病に関することで知っていることは何ですかという設問ですが、項目が多いと思います。5 番で失明になる原因の第 1 位が糖尿病であると記載がありますが、1 位は緑内障ですのでもう一度確認いただいたらと思います。問 51-1 は、12 項目ありますがこちらはすべて正解ですか。

事務局：正解です。

副会長：原因と危険因子は違うと思います。原因はわかってないと思うので、文言の正確性を確認いただいた方がいいと思います。

会長：他にいかがでしょうか。これはいつまでにきっちり決めるのですか。

事務局：アンケートを 1 月の中旬には、配送したいと考えておりますので、今日ご意見いただきまして早速内容を検討していきます。

委員：アンケートの封筒が家に来たら、それに答えるかどうかの気持ちの基準は、どこから来ているのか、何のためのアンケートなのか、答えて信頼し得るものかというのは、あると思います。これは草津市からの大事なアンケートであるということをまず封筒見てわかるようにしていただきたい。それと市長さんからのメッセージですが、小さい字で書いていますが、これをせめて 1 枚、大きな字で読みやすいようにわかりやすい文体で書いていただきたいと思います。市民の現状を知るために必要なアンケートであるのでどうか、ご協力をお願いしますということが一般市民に、見てわかるように書いていただきたいと思います。問 24 の歯の本数は、どのくらいありますかというのは、インプラントされている方はどうなるのか。問 30 の過去 2 年以内にがん検診を受けていますかの、下の欄に肝炎ウイルスの検診がありますが、これは一生に 1 度ではなかったかなと思いますが、教えていただきたいです。

事務局：問 30 のがん検診について、確かに、がん検診等と書かせてもらっていますが、市でやっている検診を肝炎ウイルス検診も含めて受けていらっしゃるかというのを聞いています。市の検診は一生に 1 度という形で実施しているので、設問を一度考えさせてもらいます。

事務局：歯につきましては、自分の歯が何本残っているかという聞いた方がいいかと思うのですがもう少しわかりやすい表記に変えさせていただきたいと思います。

会長：本日の会議全体について何かご意見とかご質問ありますでしょうか。事務局の方から何かございますか。

事務局：様々な視点からアンケートのご意見をたくさんいただきまして、アンケートについてご意見賜ったというふうに思っております。これらのアンケートにつきましては、今年度実施をして来年度の計画策定に向けて、市民の方々からの様々な情報にしたいという目的でございます。今日いただいた意見を反映して適切なアンケートになっているかというところを会長、副会長にご相談させていただいて、実施につなげていきたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。また会長、副会長にどのように相談させていただくのかは、後ほど個別にご相談させていただきます。今日いただいた意見をアンケートの方に最大限反映して参りまして市民の方々にアンケートを実施して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会長：それではこれもちまして本日予定されておりました内容はすべて終了いたしました。それでは事務局にお返しいたします。

事務局：会長どうもありがとうございました。また、委員の皆様には活発なご意見をいただきありがと

うございました。当協議会につきましては今年度1回の開催ではございましたが、委員の皆様
の任期は来年6月30日までとなります。引き続き市政の健康づくり推進にご理解ご協力を賜
りますようによろしくお願いいたします。本日は長時間お疲れ様でした。ありがとうございました。